

稲美町教育委員会議事録

1 開催日時 令和5年10月26日(木) 開会 15時00分
閉会 16時49分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

3 会議に付した事項

日程第1 諸報告

- (1) 行事・経過報告について
- (2) 10月・11月の行事予定について

日程第2 議案

議案第9号 令和6年度稲美町立幼稚園の入園許可について

議案第10号 稲美町立いなみ野水辺の里公園の指定管理者の指定について

日程第3 協議

- (1) 令和5年度全国学力・学習状況調査について(別冊)

日程第4 その他

- (1) 9月分問題行動件数について
- (2) 令和5年度(令和6年)町幼稚園・小学校・中学校の卒業(修了)式等の日程について
- (3) 第1回稲美町学校統括安全衛生委員会の報告について
- (4) 令和5年度稲美町教職員健康講座の実施について
- (5) 稲美町教育委員会後援名義等の使用承認について
- (6) 第1回稲美町通学路交通安全対策協議会の報告について
- (7) 区域外就学許可の報告について
- (8) 第1回稲美町心の健康サポート委員会の報告について

(9) 令和5年度第3次稲美町男女共同参画プラン推進懇話会の報告について

(10) 令和6年度の予算編成について(別冊)

4 出席委員

教 育 長	北 谷 錦 也
委 員	後 藤 哲 夫
委 員	本 多 澄 子
委 員	高 田 道 夫
委 員	松 田 緑

5 出席職員

教育政策部長	沼 田 弘
教育課長	奥 陽 一
学校教育担当課長	野 邊 久 美
人権教育課長	瀧 口 泰 広
生涯学習課長	赤 松 嘉 彦
文化の森課長	中 嶋 聖 仁

6 開 会

教育長

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中ご出席をたまわり、誠にありがとうございます。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により定足数に達しております。よって、会議が成立していますので、ここに開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしております。

次に、会議の傍聴を希望する者が1名ありますが、許可することとしてよろしいか。お諮りします。

各委員

異議なし。

教育長

ありがとうございます。それでは、稲美町教育委員会会議規則第19条の規定に基づき、許可することといたします。

傍聴人は入室してください。

次は、議事録の承認です。9月の定例会議事録をお手元に配付いたしておりますが、これを承認いただけますか。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、議事録は承認されました。

次は議事録署名委員の指名であります。議事録署名委員は、稲美町教育委員会会議規則第16条第2項の規定により、教育長から指名いたします。本日は本多澄子委員にお願いします。

続きまして、私から、日程第1、諸報告ですが、別紙資料の通りです。

続きまして、各課より報告をお願いします。

教育課 (報告内容省略)

人権教育課 (報告内容省略)

生涯学習課 (報告内容省略)

文化の森課 (報告内容省略)

教育長

各課の報告について、何かご意見があればお願いします。

後藤委員

2 ページの小学校の運動会は、天満東小学校の運動会に久しぶりに参加して見せてもらいました。一番最初は、6年生を中心にした応援合戦でした。児童たちが自分たちで工夫し、他の学年の児童も一緒になって、みんなで大きな声を出して応援していました。気持ちのいい天気の日でしたので、青空のもと、本当にみんな嬉しそうな顔でした。小学生の元気な姿は、本当に素晴らしいことだと久しぶりに思いました。多分子ども達も、これだこれだ、こういう感じなんだっていうので嬉しがっていたのではないかと思います。そういうものが3年間ずっと封じられてきたということの大きさをしみじみと感じました。やはり開放感や、やったという気持ちとリフレッシュする気持ちが、次への意欲に繋がっていくのであって、ぜひこういう行事を積み重ねていってできるだけ早く、自分たちの中の元気を発揮する場を作ってやっていただければと思いました。

教育長

先日開かれた社会教育委員会で、後藤委員から出た同じような話題が出まして、運動会がコロナが明けて、ちょっと様変わりしたというか、今の学校の子ども達の活動に合った運動会になってきたという感想を聞いています。それは以前の運動会では、先生方の指揮のもと、子ども達がきっちり動いていました。それも良かったんですけど、子ども達が自主的に動いているのが見られて、非常に笑顔が多い運動会になったという、そんな意見も社会教育委員からいただいております。半日はちょっと寂しいかなというような意見も出ておりました。

他いかがでしょう。

運動会のことでも構いませんし、またその他の報告につきまして、ご意見等ありましたらお願いします。

それでは私の方から1点。人権教育課の方で、じんけんわくわくスクール、毎回100人近い参加者で、子ども達がいい学びをしてきていますが、先程の「入ヶ池伝説を訪ねて」の活動では、行程が3.5キロあると聞きました。小さな低学年の子どももいますし、参加者の中には車椅子の子もいるので、その辺りの対応は、もちろん計画されていると思うんですが大丈夫でしょうか。

瀧口課長

今年、車椅子の子が2名いらっしゃいます。

今回稲美北中学校の美術部の子が参加して、紙芝居を読んでもくれます。その後、もしよければということで、3.5キロを中学生の子が車椅子を押して、交代しながら歩いてくれるという話が出ております。北山地区の方がたくさん来ていただいて、いつもは学校の先生2名ずつなのですが、この日は5名出ていただいて、先頭には社会教育委員が立っていただきます。前回天満の地域学校協働本部で一度実施されていますので、そのご経験を踏まえて先導していただきます。途中で大きな道があり、そこは重点的に車が多いので先生方を配置して、安全に努める予定にしております。事故がなく、楽しい3.5キロの道のりを歩けるようにできればと考えております。

教育長

良い体験になると思います。

中学生との交流も楽しみですし、多くの方が、地域の方が協力していただけるということで、子ども達にとってみれば信頼できる大人との交流、非常に大きな良い体験になると思いますので、よろしく願いいたします。

次は日程第2 議案第9号「令和6年度稲美町立幼稚園の入園許可について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

沼田部長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

1年前か2年前に、やはり同じような報告があったときに、加古幼稚園が、非常に少ないということでこれは、幼稚園あるいは教育委員会の問題だけではなく、稲美町全体の人口増あるいは、各地区の人口増への取組と申しますか、そういうものと関連していると述べました。

学級として開かれないということで、天満幼稚園あるいは母里、天満南へ、親御さんが送っていくことになっている子がいるのではないかなと想像するわけです。1人や2人のために学級を開くということはできないのは、合理的であり、それについて私も何も言えないわけなんです。ただその子どもが、加古にいて、天満に通う。あるいは、天満東にいて母里に通うことは、それはそれで他の地域の子も達と接するという、当然前向きな意味合いがあるかと思えますが、やはりどこかで、いやそれでいいのかなという気持ちがあるわけです。

従いまして、私が言いたいことは何も学級を開いてくださいということではなくて、稲美町の他の部局と共同して、何とか今でしたら、加古と母里の人口増、若い世代が増え、あるいはその結果として子どもが増えていくということに、積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

沼田部長

3歳児に関しましては、もともと町内町立幼稚園4歳5歳としていたのですが、3歳児も実施していくということで、まずは空き教室があるところということで母里幼稚園と天満南幼稚園と、その次に園児の多い幼稚園、天満幼稚園を増築して作ったということになります。

一方保育園の方におきましては、こども園化という流れもあります。それと幼児教育保育の無償化という動きもありましたので、幼稚園と保育園、保育所、そういったところの希望者のいろんな行き来があると言われるようになりました。実際、園児数、そもそも人口が減っていますので、その中でそれぞれの変化、役割を果たせるようにということで、幼稚園ですと、長期休業中でも預けることができたり、時間を延長して預けることができたり、ニーズに沿った形になるような取組をしています。

加古と母里地区の人口がどうしても減ってきているというのは全体的な話に繋がってくるんですけども、これまでも市街化調整区域においても、用途に応じて活用できる「地区計画」があり、調整区域の中でも人口が増えていくようにという努力はしております。また、大きな流れになってくると、空き家の活用とか、そのような物も使えるようになったりとか、用途の制限を緩和していくというのは、調整区域においても進められる動きが検討されているので、稲美町においても、人口を増やせるような取組というのを進めていくという形になろうかと思えます。

教育長

幼稚園について、他の委員の皆さん方から、何か子育て中のお母さん方から聞かれていることがあればお願いします。

本多委員

天満南幼稚園で4歳児、5歳児、一緒のクラスでされていますので、3歳児クラスのない天満東幼稚園、加古幼稚園、4歳児の中に3歳児と一緒に見てもらえる方法はないのかという話を聞いたことがあります。

幼稚園の送迎を考えた時に、近くの幼稚園に通わせたいとおっしゃっていました。

沼田部長

今年天満南幼稚園と加古幼稚園で、縦割りということで、異年齢の学年の保育をスタートしています。基本的には同学年同年齢の子どもでクラスを作ります。

実際園児の数が減ってくる中で、ある程度の集団を持って育っていくということと、それができればいいんですが、実際少なくなってきた場合に、例えば異年齢で教育していく。

その中で、実際その年度当初と終わりの方となってくると子どもさんの状況というか育ち具合が違うということ、小さいお子さんでしたら月齢によって全然違ってきたりということで、今年度進めていく中でいろんな課題が出てくると思います。それを踏まえた上で、あとはまた子どもさんの数が減っている、地域によっては、減っていくということも考えられますので、実際異年齢保育をすることが、地域で何人ぐらいまでだったらやっていけるのかとか、いろんな考え方がございますので、その辺りを踏まえていって協議をしていって、ある程度の方向性、そういったものを検討していきたいと思います。

教育長

少子高齢化ということで人口増というのは、稲美町に限らず、多くの市町の最大の課題であると思います。教育委員会と他部局と協力しながら、魅力あるまちづくりを進めて、多くの方に稲美町に来ていただいて、ここで子育てをしていただけるような、取組を進めていきたいと思っております。

その中で、幼稚園のあり方ですが、今事務局から説明がありましたが、実は今年、4歳5歳の縦割りのクラス編成を天満南幼稚園と加古幼稚園で考えるときに、一つは3歳4歳の、事務局としては、提案をして各園長先生方、あるいは幼稚園の先生方の意見を聞きました。今4歳

5歳を進める中でも、創作活動とか、あるいはいろんな活動の中で、発達段階に応じて、カリキュラムが違うから、非常に難しい状況です。そこに3歳の子ども達を入れてやるのは、ちょっと難しいのではないかということで、4歳5歳で、もちろん縦割りのよさというものもあるんですが、今年度これから幼稚園教育のあり方の協議会を開いていきます。

その中で今やってもらっている天満南幼稚園、加古幼稚園の取り組みについても報告いただき、今後のあり方、また3歳の学級をどうしていったらいいのかということで、今委員の皆さんからいただいた意見も、参考にしながら考えていきたいと思えます。

すぐに良いお答えはできないんですが、これから今の意見を踏まえて、協議会の方で検討していくということで了解いただけたらと思えます。

松田委員

幼稚園を選ぶことは、保護者にとってすごく真剣で、私立もありますし、こども園もありますし。いろんな情報を集めて、実際子どもをその園で遊ばせて、どんな反応をするかっていうことで、時間もかけられて、選ばれていると思えます。

わたしの場合も、私立でしたら異年齢の教育というのは結構たくさんありました。

それは私もすごくいいなと思ったのは、私は現在は子ども1人ですので、1人っ子で育てようと思っていて、異年齢の方と生活するというのは、上の憧れとか、下へのお手伝いをしてあげるとか、自分が成長すればそういうことができるというのが、いろんな効果があるのではないかって、私立の方も考えていたのですが、実際選んだのは公立の方を選びました。今は学年ごとに園で過ごしています。

でも意外と異年齢と一緒に参加するような行事として、園で作って下さっていて、例えば先日、運動会があったのですが、3歳児の時は、1人で走るのにはできるんですが、みんなと一緒に踊るのは意欲的ではなかったんです。

1年経つと、3歳児から4歳児の1年はすごく成長が大きくて、私も驚いたんですが、自分で先生方の助けもなく、最初から最後まで、運動会に参加することが出来て、やはり1年、3歳児から4歳児の1年がすごく大きいと思えます。運動会の中で4歳児と5歳児と一緒に玉入れをするような機会を園の方が作られていました。

だから、3歳、4歳児はなかなか一緒に何かをするというのは、ちょっと難しいと思えます。4歳、5歳というのは、結構成長段階においては、もちろん月齢によって違うと思えますが、4歳児5歳児になると、一緒にできることが増えると思うので、園の存続ということで、稲美町が初めて加古幼稚園、天満南幼稚園でされていることは、良い事だと思えますし、期待をしています。

教育長

私たちが加古幼稚園、それから天満南幼稚園の方に4歳5歳児の縦割りのクラスがどうなのかというのを何度か見に行かせていただいて、同じ感想を持ちました。

5歳児の子がものすごく成長したというか、お兄さんお姉さんになっているという姿が、園長先生方からも聞いています。

ただその分、カリキュラムが違うというのを同じ時間の中でやります。担任の先生1人なので、その準備の大変さ、先生方のそのあたりも見ております。

今の意見を参考にさせていただいて、町内の幼稚園の教育が充実するように、協議会の方でも意見反映させていただきたいと思えます。

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、これより採決に入ります。議案第9号は、原案のとおり承認す

ることにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり承認されました。

次は議案第10号「稲美町立いなみ野水辺の里公園の指定管理者の指定について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

赤松課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、これより採決に入ります。議案第10号は、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり承認されました。

次は、日程第3、協議事項(1)「令和5年度全国学力・学習状況調査について」を事務局から説明願います。

野邊課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

非常にたくさん内容ですので、その中の一つだけで私が何かお話できることと思っています。

資料の3ページに、稲美町小学校6年生のアンケート結果から、高い項目と、やや低い項目というのがあって、「国語の授業で書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章の良いところを見つけているか。」が、やや低い項目として挙げられているわけですが、実際これが低いから、どのように解決しようかとなったらなかなか難しいことと思いましたが。書いた文章あるいは意見を学級の友達と伝え、伝え合いと言ったら、私が授業を見学させていただいた時にグループ学習がありまして、そこで見せ合って、良いとか悪いとか、いやちょっとまあまあだとか、言える言い合いをするという可能性も考えられなくはないんですが、実際その子ども同士で、ここが良いとか悪いとか、言い出したら、それこそ気分を害したり、いじめの問題に繋がったり、非常に難しいと思うんです。かつ、そうしたら先生が見回ってといっても、たくさんの班があったら、一つや二つの班でずっと見て、ここがいいなとか言えると思います。

が、それもせっかく書いたものを先生がいまいちなだとか、A という子より B という子が良いなと言ったらそれもまた、差し障りがあるという。

一体どうしたらいいんだろうと思ってふと思いついたのが、私が属している短歌会が、天満小学校からコロナ前の10年近く出前授業を依頼されていました。10月の修学旅行が終わった後の、ある一日の3時間目と4時間目給食の前の2時間授業をしました。

その時に、短歌とはこんなものだということを1時間話をして、あとは全員から出してもらった短歌を1つずつ、これのどこがいいというのを、一人一人にアドバイスしていったわけです。それは非常に大変で、子どもによってはもう飽きたということもあるかと思いますが、何が良かったかという、友だち同士で良いとか悪いとか言い合ったら、関係が悪くなる。先生が言ったら、差し障りがある。第三者である私達が、その短歌という短い文章で、ここが面白いとか、これは大胆でいいなとか、コメントをするわけです。そういうふうにすると、本人も思わぬ指摘で喜んだり、あるいは良いなと思ったのに、何かもうひとつやとか、例えば私に言われて、ウンと思う。ただ、それも他の友達のも全部言うわけです。そうかあの子のここが良かって、自分のここがちょっとまずかったなというのがわかるわけです。

具体的に言いますと、修学旅行の後ですから、広島へ行く。そしたら生徒で一番多いのは、もみじ饅頭を買った。食べた、家の人に渡した。その短歌が一番多いです。それから次は、広島焼を作った、食べた、美味しかった。やっぱりそれが2番目になります。しかし、その誰もが書くような中で、私が見てもすごいという、本人の能力があるのか偶然かわかりませんが、それを見つけて教えてあげました。そうしたら3人に1人ぐらいいは、これはなかなか良いと、いえる子が出てくるということがありました。

それから、広島と言えばやはり原爆です。原爆を短歌でどう向き合うかというのが、それは私が言われても非常に難しい。やはり悲惨なことだから、皆さん仲良くして平和を目指しましょうという、私が一生懸命ひねってもそういう趣旨の短歌にしかならない。

小学校6年生のクラスで5、6人原爆をテーマにしたら、その半分ぐらいいは私が見ても、すぐれた短歌になっていた経験が毎年ありました。

そういうこの一つの国語の授業で、友達といろいろ言い合うという、この一つに第三者による指摘というのを加えてあげたら、ちょっとはプラスになるんじゃないかなと思います。

野邊課長

自分と直接関係のない方から、見ていただいて評価をいただくというのは、貴重な体験になって学びにも多く繋がるのではないかと思います。

子どもたち同士で伝え合う時には、どこがいいか、いいところを見つけていこうねとか、ここをこうしたらもっと良くなるよというアドバイスをしていこうね、という声かけをします。悪いところを指摘するというよりは、お互いにもっと良いものにしていこうというところで、やっていければなと思います。

また、子ども達の中では、自分の文章に自信のない子が多いんです。ですから、おっしゃっていただいたように、様々な立場の方に褒めていただくのはとても効果があると考えます。

後藤委員

3ページと、中学生の方、8ページ。

学校とか生活の様子で、子ども達が自分で自分のことを評価しているということで選んだものだと思うんですが、小学生、中学生両方とも生活の基本的なこと、朝食を毎日食べているとか、そういうようなことが、全国平均が高い。

それから自分自身のとらえ方として自分にはよいところがあるとか。将来、人の役に立つ人になりたいとか、夢とか目標を将来に対して持っているとか。

さらに今住んでいる地域行事に参加している、こういったところが小中とも共通して、全国平均よりも高い。非常に良い事だなと思います。

こういったことが今までも続いてきておりますし、今回もそういった結果が出ておりますので、ぜひそういう基本的なところが子ども達、まっすぐ伸びていきますように、これからは各学校の教育の中で、また、家庭の協力の中で、取り組んでいただきたいなと思います。

ただ、その下にやや低い項目の中で、小学生としては読書のことが課題になっています。

1日当たり1時間以上読書をするというのが、全国的に見て低いというところが、ちょっと残念な気がしております。各小中で読書の時間というの、まだ取り組んでいただいているとは思いますが、非常に貴重なところだと思います。そういったところが途絶えてしまうと、子どもが本を手にとって、筆者の方との対話といいますか、文字を通して、人の考えを確認をしていくというそういう経験ができなくなってくると、将来的にせつかくの伸びるものが伸びないということが出てくるかと思っておりますので、読者の時間プラス、ぜひ子ども達の読書の時間が増えますように、これからも意識してやっていただきたいと思っております。

それから、中学生の方での課題として残念なのが、コミュニケーション力です。学級活動での話し合いとか互いの意見のよさを生かしてということ、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動が、ちょっと全国平均と比べて低いという結果が、子ども達の判断です。

ぜひ話し合い活動というのですか、そういうのを意識的に持っていただいて、とにかくマスク生活の中で子ども達が自分の声を発して他のこと、何かを語り合うとか、そういったことがちょっとできにくくなっているなという感じがします。とにかく口が重いです。

ですから、どんどん自分の思ったことや感じたこと、そういったことを言葉を通じて、ちゃんと相手に伝える。そして他の人の言うことをちゃんと自分で聞く。これも大切だと思いますので、ぜひ小中そのあたりもコロナを乗り越えようということで、自分の気持ちを言葉を通じて出す、そして聞くという機会を授業の中でも大事にしていきたいなと思います。

野邊課長

稲美町の子ども達の良いところは、生活習慣に関することと、自尊感情に関わることで、全国的に比べても高いです。

それは家庭生活で、朝食、寝る時間なども落ち着いているということで、家庭の力も大きく、褒めていただいているところも大きいと思います。ここは、ここ数年ずっと高いんですけど、引き続きこの高さをキープしていければなと思っております。

それから、話し合い活動等については、コロナのこの数年は、グループ活動というのは難しかったのですが、タブレット端末という一つのツールも出てきております。タブレット端末の中で意見を交換することができる一方で、やはり直接意見を聞き合う、そこも重要だということで、今この学校も対話というものを大事に取り組んでいます。

昨日道徳の授業を見させていただいたのですが、子ども達が自分の思いを遠慮なく言えているという、学級作りも大きいかなと思うのですがそういうところも見受けられましたので、自分の思いを素直に発表して、友だちの意見も聞いて、また高め合っていく、そういうような活動もどんどん増やしていければと思います。

教育長

高田委員、後藤委員の方からも質問も併せてご意見いただきましたが、高田委員の方からもありましたように、今小学校でも中学校でも、学び合い、協働学習をどう作っていくかというのが、各学校で大きな課題になっています。

自分だけの学習じゃなくて、周りの友だちと意見を交換するというので、今年は稲美中学

校区の学校園を回っていただきました。その中でもそういう取り組みを、チャレンジされている授業もありましたので、またそういうポイントで、来年度の学校訪問でまた見ていただけたらと思います。

それから、後藤委員にちょっとお聞きしようとしたのは、子どもの頃、僕たちの学習の様子を見られて、本当に褒められた前向きの言葉をかけていただいたという、ものすごくそういう思い出しかないんですが、今タブレット端末があつてそれが、机を回らなくても、先生のところで、一度に子どもの学習の様子を確認することができるようになってきていますので、そういうのも活用して、高田委員のようなことがさらに充実するよう、校長会、園長会等でお話をしていきたいと思います。

他、いかがでしょう。

私の方から4ページのところで、例えば「新聞を読んでいますか。」で、ほぼ毎日読んでいる子ほど、そういう正答率が高い。あるいは、「家にどれぐらいの本がありますか。」、本の冊数が多い子ほど正答率が高い。

でもこれは、子どもにはどうしようもできませんよね。子どもの責任じゃなくてその家庭の環境であつたり経済力であつたり、そういう子ども達に対して、それなら、学校の方でこういう取り組みで、その部分を補うために、どんな取り組みがあるのかまた、そういうのもこれから検討していただきたいと思います。

同じく9ページの中学校の中で、これも「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれぐらいありますか。」というところも、これが子ども達の自己有用感、自己肯定感と言われるものだと思うのですが、それがやっぱり高い子ほど正答率が高い。

当たり前ですが、厳しい環境、ちょっとですね、しんどくて困っている子ども達は、仕方ないとは言えませんので、そういうしんどい子ども達の自己肯定感や自己有用感を上げる取り組みとして、どんなことを工夫されているかというのを事務局の方から教えていただきたいと思います。

野邊課長

家庭の状況で、厳しいお子さんの話がでましたが、学校の方でも、新聞や読書に関しては、やはり学校でも読める環境を作っているところだと思います。

実際の新聞も置いておりますし、それから、タブレット端末で新聞の内容を確認できる取組も行っておりますので、その辺でいくらかはカバーできたらと思っております。

それから、子ども達の自尊感情を上げていく。その辺は、子ども達同士もありますし、先生と子どもの信頼関係を築いていく。そこで、その子なりの頑張っているところ、そのあたりを、教師も友だちも見つけて、認めていく。そういう関係性づくりが大事ではないかと考えております。

またそれが学力にどのように繋がっていくかというところは、これから検証していかなければならないかなと思いますが、学習ができる環境づくりが家庭では難しいようでしたら、学校の中での学習ができるスペースを保障していく、整えていくそういうところもこれから考えていきたいと思っております。

以前大阪の方で、見せていただいたふれあいカフェでは、子ども達の居場所として図書館、図書室が使われていました。居場所の一つとして図書室に来ることで、本を開いてみて、そこで読書の楽しさを子ども達が感じてくれるような機会にもなればなと思います。図書室の活用もそういう面でも、考えられるかなと思いました。

教育長

後藤委員の方からご指摘ありました稲美町の子ども達、小中とも良いところは地域行事に参

加している。これは全国平均に比べても、非常に高い数字でこのような数字が年々、この毎年調査の中で上がってきています。

関係するものとしてはコミュニティ・スクールの進展と合わせて、夏祭りを見ましたら、中学生が動いている、働いている、ボランティアとして頑張っている人たちの姿が非常に目に付きました。

時にはお祭りの進行で、それが声が小さかったりとか、失敗したりとかあるのですが、それをやっぱり周りの大人の人たちが、温かい目で見守ってくれているのです。

先ほどのじんけんわくわくスクールではありませんが、その信頼できる大人との繋がりというのが、自己有用感や自己肯定感を上げてきてくれるものなのかなと思います。

今の取り組みを充実させて欲しいと思うのと、それを教育委員会としては、支援をしてあげて欲しいと思います。

野邊課長

今回、特に「中学生が地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがある。」そのポイントが大きく上がりました。

今、コミュニティ・スクール等で座談会的に地域の大人と話し合うという場面も増えてきていますし、その取り組みが小学校の方にも波及していきまして、今年も小中でもうすでに座談会が行われています。この後も小学校で地域の方と一緒に話をしていこう、また一緒に活動していこうという取組が計画されています。大人の人に話をし、自分達の意見を大人の人が聞いてくれたというのがうれしかったというような、子ども達の感想も出てきておりましたので、そういうところで、教育長がおっしゃったように、子どもと大人の信頼関係を大事にしていけたらなと思います。

教育長

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、協議事項を終わります。

次は、日程第4、その他(1)「9月分問題行動件数について」を事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

瀧口課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

小学校のSNSのトラブル、大きなことになる前に相談してくれて良かったですね。

奥課長

保護者の方が対応に困り、専門機関の方と連携することを学校が伝え、すぐに保護者が、警察の方に動きました。その子自身もかなりおびえもあったようですから、連携の仕方としては保護者と学校、関係機関と一緒に動きました。

また校長会等でもそういった事案は、共有していきたいと思います。

教育長

SNSに関してもトラブルが年々増えてきているのですが、これに関してはもう私たちより、子ども達の方が詳しいようなところがあります。だからこそ余計に困ったときに、そのSOS

を子ども達が、出してくれないというのがあって、他ではいろんな被害にあったりというのがありますので、今回のように、何か困ったらおかしいなと思ったときに相談できる、そういう雰囲気づくりを学校園で進めてくださいというのも合わせてお願いをしてもらえたらと思います。

奥課長

先日も生徒指導担当者の研修会の時に、スクールカウンセラーが講演する中で、子ども達、児童生徒が SOS の出し方という内容で講演もございました。各校でその内容等を全教職員で共有できているのではないかと考えております。

後藤委員

不登校生の数が 20 日以上と変更になったというところで、先月よりも下がってきたという、この後 12 月、3 月末という、その基準に合わせて、どんなふうに変化していくかというところ、できるだけこの数が増えないように、期待するところです。

これからいろんな学校行事など、子ども達が生き生きとした場面が多くなってくれば、明るい雰囲気でも学校にも来やすくなるということを期待したいと思います。

今日の中学生の問題行動、いじめの件についても、言葉の行き違いというか、悪口を言われたと思った、こんなふうに言われたって自分で勘違いすることもあるようです。

中学生ぐらいまでのけんかの原因の半分以上はそうじゃないかなと、経験では思います。その原因は、相手に言う言葉の音量が小さい。だから相手が間違っって聞きやすい。はっきり言えない。誤解されやすいというか、語尾がはっきりしない。そういうところがあるので、こういった自分の言葉を大事にしてははっきりと言う、相手にしっかり聞こえるように言うということ。授業の中での発表の仕方だとか、いろんな会議での発言の仕方だとか、そういったことで、練習していくと、子ども達の誤解に基づくいざこざというのは、減ってくるのではないかと気がします。

そういったことも、問題行動に関係しているというふうに思いますので、普段のそういう意識的に子ども達にこういうことが大事だよということをしっかり言って、言葉をお互いに大事にしていこうねということを伝えていくのが大事ではないかというふうに思いますのでよろしくお願いします。

瀧口課長

学力状況調査でコミュニケーション力という項目もございましたので、それに関わってくるのかなと思いますので、その辺は指導していきたいと考えています。

教育長

次は、(2)「令和 5 年度(令和 6 年)町幼稚園・小学校・中学校の卒業(修了)式等の日程について」から(4)「令和 5 年度稲美町教職員健康講座の実施について」までを事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

野邊課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

先生方の病気休暇の中で、心というか、しんどいっていうのは何名ぐらいいらっしゃいますか。

奥課長

この病気休暇にはおりません。

教育長

次は、(5)「稲美町教育委員会後援名義等の使用承認について」から(7)「区域外就学許可の報告について」を事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

沼田部長 (説明内容省略)

奥課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

26 ページ 27 ページの区域外就学の件ですが、当然いろいろな事情があるわけですが、家庭の事情、学校の事情、いろいろかと思えます。

私のついこの間の体験といいますか、小学校の運動会を見させていただいて、一番最初に、天満南小学校で非常にアットホームな心温まる競技を2つ3つ見させていただいて、それから次は、天満小学校に来てやっぱりすばらしかったんですが、気持ち的にはもうびっくりであります。その人の多さ 700 人の生徒に対して保護者が 2 人来たとしたら、1400 に合わせて 2100 人という、その規模で運動会をやっていたということです。

ちょうど行った時は、フラッグというか、青と白の旗をする見事な演技であったわけなんです。天満南小学校のアットホームなこともよかったし、その大規模な天満小学校はその大規模なりに素晴らしい動き、統一感がよかったです。

しかしこういうふうには他の市や町に行く、あるいは他から来る子供たちは、やはり私のびっくりでは済まない気持ちになろうかと思えますので、送り出すにあたって、あるいは迎えるにあたって、子ども達はおそらく非常にカルチャーショックを受けることはもう事実でありますので、そのフォローをよろしくお願ひしたいと思えます。本当に身に染みてわかりました。

奥課長

区域外ではなくて転出入の児童生徒ということでございますが、各学校で転出転入について、関係する学校がございますので、転入する子どもにつきましては、相手方の学校と連絡を取り情報共有をしておりますし、逆にこちらから転出する児童生徒についても同様なことを、相手方の学校と行うように、子ども達が転入先、そして転出先で、不利な状況にならないように、そしてよりよい学校生活を送れるよう、学校の方と連携して、これからも進めていきたいと思えます。

教育長

次は、(8)「第1回稲美町心の健康サポート委員会の報告について」から(10)「令和6年度の

予算編成について」を事務局から説明願います。

瀧口課長 (説明内容省略)

沼田部長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、以上で、本日の議事はすべて終了しました。

なお、次回定例教育委員会は、11月22日(水)ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、これで本日の会議を閉会といたします。

本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。